

港区立青山中学校

令和元年度 授業改善推進プラン

I 区学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を踏まえた課題

<p>国語</p>	<p>第一学年では、「聞き取り」「漢字の書き」「文学作品の読解」が、目標値を下回っている。特に、「漢字の書き」は、5ポイントと大幅に下回っており、大きな課題と言える。また、その他の項目は、目標値を上回ってはいるが、いずれも小幅の上回り方で、全般的に国語力が低いことがうかがわれる。</p> <p>第二学年は、「漢字の書き」「文法・語句」が目標値を下回り、特に「文法・語句」が課題である。</p> <p>第三学年は、全ての項目で、目標値を上回り、特に「読み取り」に関しては、文学作品でも説明文でも大幅に上回った。</p>
<p>社会</p>	<p>第一学年は、社会科としての基礎学力を向上させたい。特に歴史の始まり～江戸時代、日本国憲法等の理解に課題がある。</p> <p>第二学年は、社会科としての基礎が定着している生徒が多い。歴史の「縄文時代から古墳時代」の理解に課題が残る。</p> <p>第三学年は、社会科としての基礎が定着している生徒が多い。全般的に理解できているが、今後自治問題に力を入れたい。</p>
<p>数学</p>	<p>第一学年は小学校の学習で、小数の計算、円の面積に関する計算、反比例の関係を見出すこと、逆向きに考えることについて課題がある。</p> <p>第二学年は比例反比例全般、資料の分析と活用全般に課題がある。</p> <p>第三学年は全体的に目標値を上回っているが、連立方程式の利用など、文章題の読み取りや立式に課題がある。</p>
<p>理科</p>	<p>第一学年は、全国の平均点を下回っている。特に「植物のつくりとはたらき」、「生物と環境」の理解に課題がある。</p> <p>第二学年は区および全国の平均点を下回っている。「物質の状態変化」、「植物のつくりとはたらき」の理解に課題が残る。</p> <p>第三学年は全国や区の平均点を上回っている。全般的に理解できているが、「電流の性質」、「前線の通過と天気の変化」については今後も力を入れていきたい。</p>
<p>外国語</p>	<p>第一学年は、積極的に発話活動に取り組む生徒が多いが単語の綴りを苦手とする生徒が多い。</p> <p>第二学年は、語形・語法の知識・理解において動詞の活用や代名詞の活用を苦手とする生徒が多い。語彙の知識・理解では品詞を問わず未定着な語彙が多い。日常・身の回りを表す単語の定着率が低い。表現の観点において、上記の知識・理解の不足により書くことができない生徒が多い。</p> <p>第三学年は、語彙の知識・理解ではおおむね良好であるが、形容詞でふたつ形を持つものの使い分を苦手としている。疑問文のうち、助動詞で始まるものや疑問詞で始まるものの語順について未定着な生徒が多い。</p>

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	○漢字を書く力。	○第一学年では、文学作品、説明文それぞれの読み取りのスキルを理解させ、それに従って読み取りをさせる。また、毎時間漢字の小テストを行う。 ○第二学年では、漢字の小テストを行い、授業の中で、日本語の文法的特徴などを随時説明する。 ○第三学年でも、毎時間漢字の小テストを行い、発展活動としての話し合いなどを充実させていく。
	○文法、語句の知識。 ○さらに深い読み取りの力と、主題や筆者の意見を踏まえて、自分の考えを持ち、発表する力。	

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	○教科の正答率の「基礎」は理解できているが、「活用」する力を身につける。	○授業で得た知識を、実際に応用できるような思考力を向上できる授業やワークシート等の工夫をしていく。 ○時事ニュースを取り上げ、社会に興味・関心を持てるように指導を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
数学	○数学的な基礎知識や理解力を身につけ、計算・図形・関数・統計の技能を高め、数学的な考え方を活用して表現することができる力を養う。	○習熟度別少人数の実施。 ○反復演習の徹底。 ○振り返りテストの実施。 ○生徒が考えを伝える時間を意図的に作る。 ○表現力をつけるために教え合い学習、学び合い学習を行う。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	○自然事象に対する興味・関心や理解度を高め、観察・実験を通して科学的に探究することができる力を養う。	○基礎学力の定着を図るために、単元ごとに振り返りテストを実施する。 ○身近な自然事象を取り上げ、問題一つ一つに対して、思考し、考えを自分の言葉で表現させることで、思考力・判断力・表現力を向上させる。

音楽	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ○表現に必要な技能を身につける。 ○表現を創意工夫することや味わって聴くことができるようにする。 ○主体的、協働的に取り組み、音楽の楽しさを体験する活動から音楽に親しむ態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価カードを活用した、本時の目標の明示と各自の振り返り活動を充実させる。 ○生徒に役割を持たせたり、発問する時間を多く取り入れたりし、生徒が主役の授業を行う。 ○苦手意識のある生徒には個別に声かけをする、器楽指導においては練習時間に個別に指導するなど、個々の能力の伸長を常に意識して指導すると共に、協働的学習を取り入れ一体感も味わえるよう、毎時間の授業を工夫する。

美術	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ○美術の働きや美術文化、社会における美術の役割を感じ取り自分の表現により他者とコミュニケーションする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間の美術館鑑賞プログラムにより美術館学芸員や美術を学ぶ大学生との交流から社会と美術の関わりの事例を知る。 ○友達同士の作品鑑賞を通じて著名美術作品だけではなく身近な表現の多様性を考える場面を作っていく。

保健体育	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の目標に向かい、最後までやり遂げる力を養う。 ○自分の課題解決のために、何をすればいいか考える力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ活動を取り入れ、仲間同士で励まし合えるような機会を増やす。また、達成感を味わわせるために、個人の能力に合った目標や段階的な指導をしていく。 ○授業の振り返りを行うことや学習カードの記入を具体的に書けるように促していく。

技術・家庭	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活と技術についての基礎的な理解を図るとともにそれらに関わる技術を身につけるようにする。 ○生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、課題を解決する力を養う。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

外国語 (英語・国際)	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる力を養う。	○指導体制は、少人数授業の実施により語彙・語形などを習熟度に応じて定着を図る。 ○指導方法は、会話の作成・発表を毎週の授業で行い、学習した語彙・語形などが実際にどう使うかを実践する。

道徳	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○一人一人の人間の能力や可能性を尊重し、思いやりの心や生命を尊重する心を養う。 ○人間としての生き方について深く考えようとする態度を育成する。	○各学年、ローテーション授業を行い、学年体制で指導していく。 ○二つの立場に分かれての話し合いなど、主体的に話し合いがで き る方法を工夫する。 ○役割演技など、自分のこととして考えられる指導方法を工夫する。

特別活動	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○集団の一員として自分の役割を確実に果たす力を養う。 ○良好な人間関係を築けるコミュニケーションの能力を養う。	○行事、生徒会活動、学級活動、部活動の場面で、役割分担を明確にし、最後までやり遂げることで責任感を身に付ける。また、集団をより良くするための方法や改善点をお互いに話せる機会をつ っていく。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○生きて働く「知識・技能」の習得。 ○未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成。 ○学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養。	○「課題設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」→「振り返り」というプロセスを基本とする。 ○第一学年は前期には移動教室をとおして、調べ学習を事前事後学習として行い、後期には職業調べ・進路学習を行う。第二学年は前期に進路学習を行い、後期には職場体験の事前事後学習、キャリア教育を行う。第三学年は前期には修学旅行をとおして、事前事後学習を行 い、後期には進路学習・キャリア教育・ボランティア活動を行う。